

2020年2月19日

熊本大学大学院自然科学教育部理学専攻

理学専攻 M2 アンケートの集計と分析

このアンケートは平成30年3月に修了した自然科学教育部理学専攻の大学院生を対象としたアンケート調査である。アンケートの回答結果は、理学専攻および理学科の教育システムの改革や改善向上のために活用する。全対象院生からのアンケート回答を目指して、各研究室にアンケート用紙必要部数を封筒に封入して配布し、以下提出期限までに教務担当事務まで提出依頼した。

提出期限: 2019年2月15日(金)

提出場所: 理学部教務担当

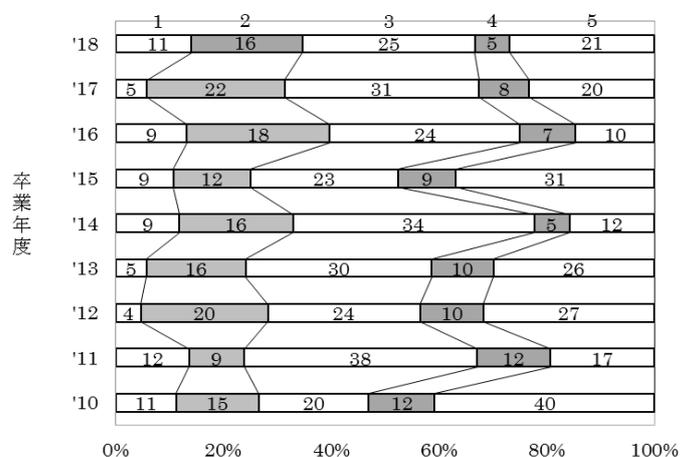
結果、78名から回答を得ることができた。回収率は98%であった。この報告書において回収したアンケートデータの集計とその分析を行った。

あなたの研究分野は何ですか

1. 基礎数理 2. 物理科学 3. 化学
4. 地球環境科学 5. 生命科学

アンケート回答者数の分野ごとの数値である。

基礎数理および生命科学コースは前年度に比べ人数が増えている。その他のコースは人数が減っている。年度によって多少の増減はあるが、大きな変動は見られない。



A. 入学時の志望理由について

(A1) 入学時に熊本大学大学院自然科学研究科理学専攻を選んだ理由を記述して下さい。

回答・意見など：70件

多くあった意見をまとめると以下のようなになる。

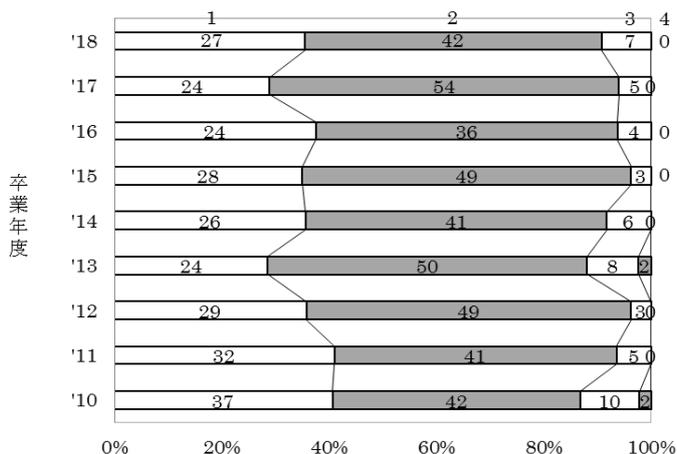
研究を深めたい（継続したい）	35件
勉強したかった	
（スキルアップのため、研究活動に興味があった等）	11件
学部と同じ環境で学びたい	15件

B. 教育・研究について

熊本大学理学部理学科を卒業された人に学部での授業や制度についてお聞きします。（該当しない人は次ページの質問 (B7) に進んで下さい）。

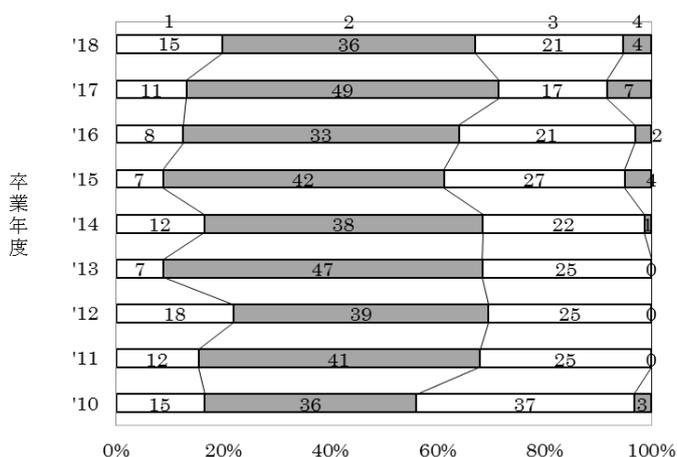
(B1) あなたの専門分野に関連する学部の専門科目は、大学院進学後の学習・研究に有益でしたか。

- 非常に有益だった
 - 有益だった
 - あまり有益ではなかった
 - 有益ではなかった
- 意見など：6件



(B2) あなたの専門分野外の学部の専門科目（専門基礎科目も含む）は、大学院での学習・研究に有益でしたか。

- 非常に有益だった
 - 有益だった
 - あまり有益ではなかった
 - 有益ではなかった
- 意見など：5件



(B3) 教養教育での学習は，大学院での学習・研究に有益でしたか. 具体的な事例があれば，自由記述欄にお書き下さい.

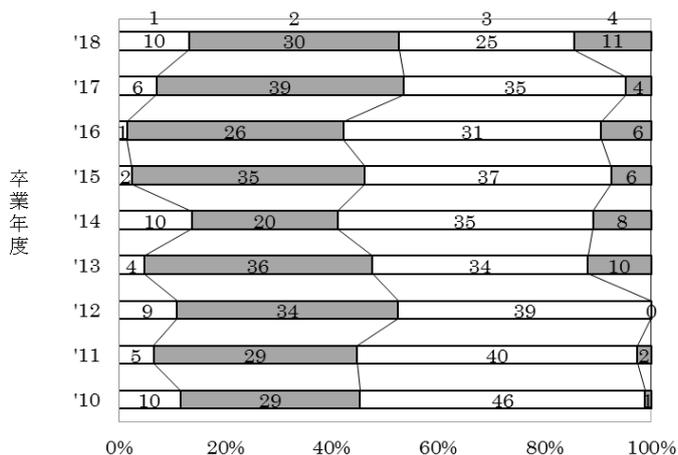
1. 非常に有益だった
2. 有益だった
3. あまり有益ではなかった
4. 有益ではなかった

意見など：3件

専門分野に関連する学部の専門科目は

「有用」と「ある程度有用」で約9割弱を

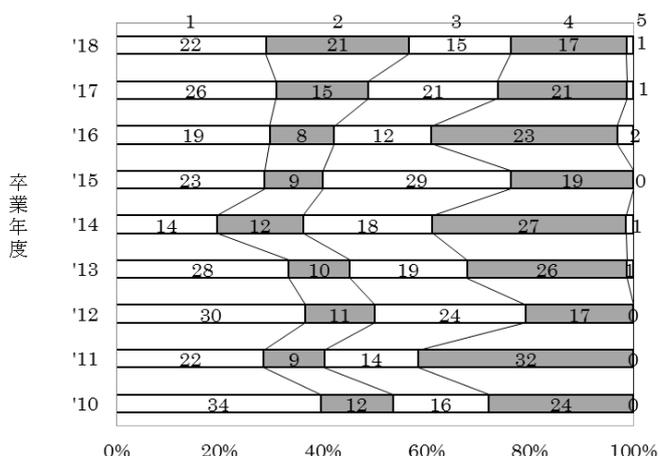
占めている。一方、専門分野外の専門科目では65%程度になっている。教養教育に関しては、有用だったとする割合がほぼ半数であった。例年同様の回答率になっている。



(B4) 理学科での専門分野はいつ決めましたか.

1. 入学前
2. 1年終了時
3. 2年前期終了時
4. 2年後期
5. その他

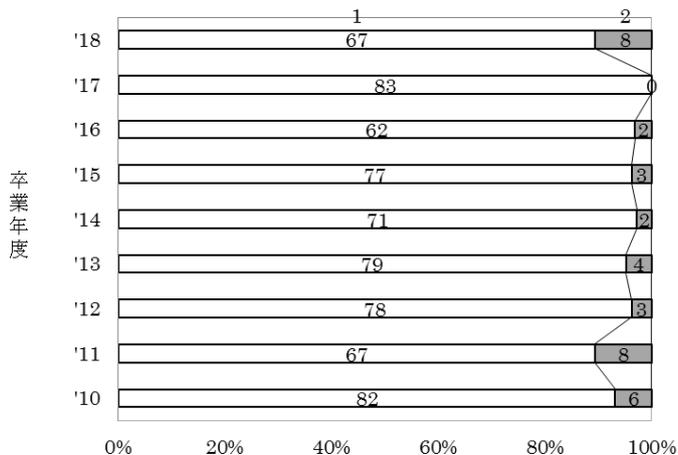
意見など：4件



(B5) 今かえりみて，専門分野の選択は自分にとってよかったですか.

1. 思う
2. 思わない

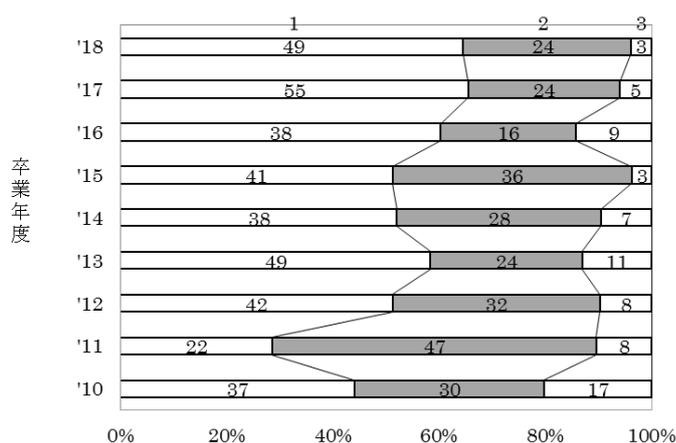
意見など：4件



(B6) 現在、3年進級時にコースを選択していませんが、今かえりみていつがよかったと思いますか。

1. いまのまま (3年進級時)
 2. 2年後期から
 3. その他
- 意見など：6件

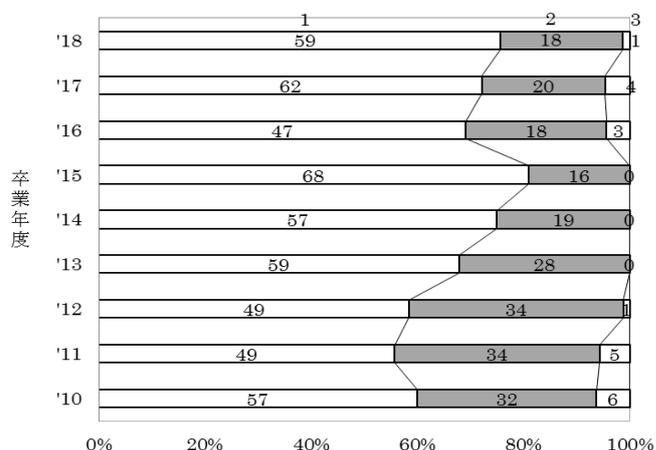
約半数の学生が学部1年次終了の段階で専門分野を決め、7割以上は2年前期終了時には決定している。コース選択の時期についての問いに関しては「いまのまま (3年進級時)」とする回答が6割で「2年後期から」が3割程度ある。ここ数年は同様の分布である。



自然科学研究科での授業に関してお聞きします。

(B7) 必修科目数と選択科目数の割合は適切でしたか。具体的な意見があれば、お書き下さい。

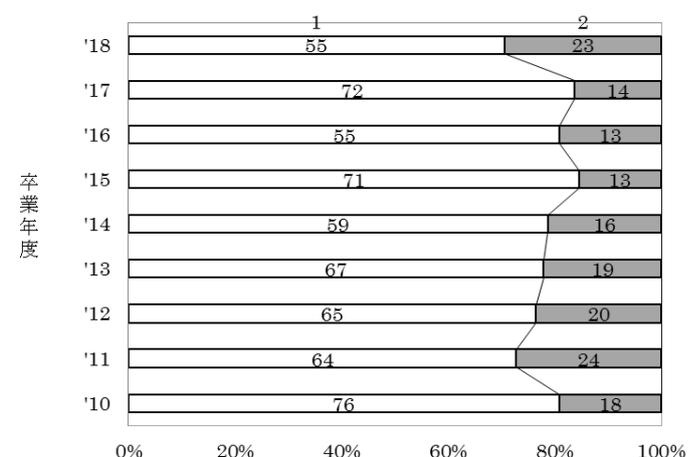
1. 適切であった
 2. どちらとも言えない
 3. 不適切であった
- 意見など：4件



(B8) 理学・数学専攻で他大学等の先生の集中講義を履修しましたか。履修した場合は、科目数もお書き下さい。また、集中講義に対して具体的な意見があれば、お書き下さい。

1. 履修した (科目数：回答数 53 件)
 2. 履修しなかった
- 意見など：3件

必修と選択の割合については、約70%が「適切」としている。また、集中講義は7割弱の院生にとどまり前年に比べ減少している。科目数としては1-3科目と答える学生が多いが、中には7科目を受講したと回答した学生がいた。興味深い科目をなるべく多く設定し、受講機会を増やしていく必要がある。



(B9) 大学院の授業の中で特に有意義であった授業を挙げて下さい。

科目名, 意見など 48 件

専門に近い科目で特に印象に残った講義を挙げた回答が多いと思われる。

(B10) 博士前期課程 2 年生で授業（特別研究やゼミナールを除く）を何科目履修しましたか。

科目数：平均 2.9 科目（うち集中講義 平均 2.4 科目）

回答数：75 件

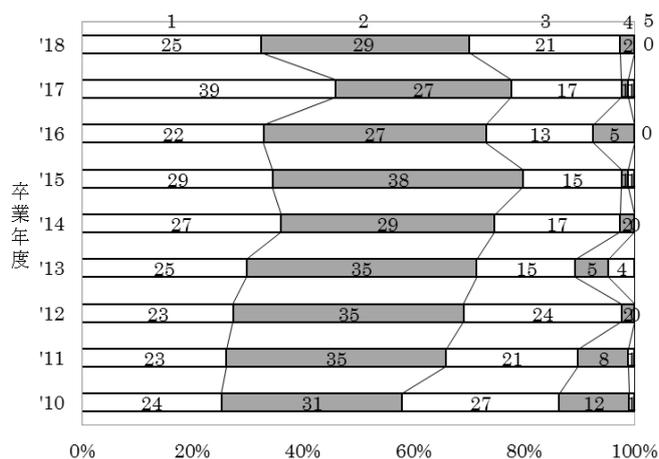
意見など：1 件

(B11) 博士前期課程のカリキュラムは如何でしたか。

1. 満足
2. どちらかといえば満足
3. どちらとも言えない
4. どちらかといえば不満足
5. 不満足

意見など：0 件

「満足」「どちらかといえば満足」の学生がほぼ 7 割であった。大体同じような傾向である。



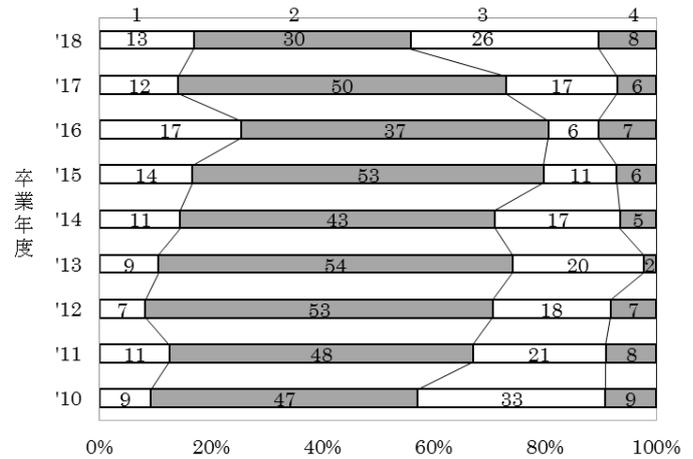
自然科学研究科の教育全般についてお聞きます。

(B12) 学生便覧に掲載されている自然科学研究科の教育目的は理解していましたか。

1. 十分理解している
2. ほぼ理解している
3. よくわからない
4. 知らない

意見など：0件

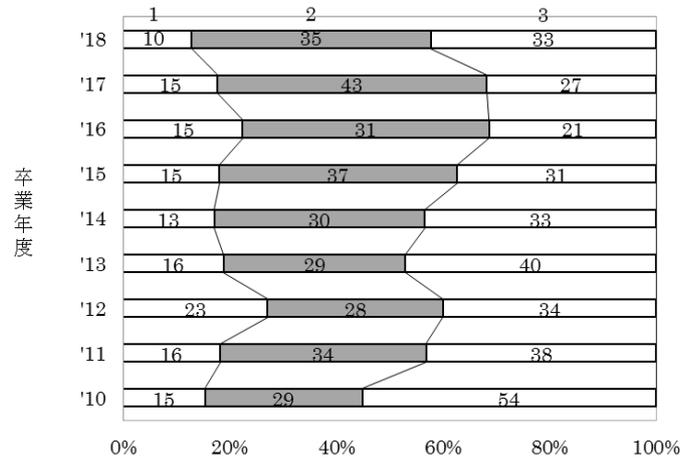
「十分理解」「ほぼ理解」で5割強しかない。「よくわからない」が増えている。



(B13) 自然科学研究科は理学系の専攻と工学系の専攻からなる融合型の研究科ですが、その事のメリットはありましたか。

1. メリットはあった
2. わからない
3. メリットはなかった

意見など：4件

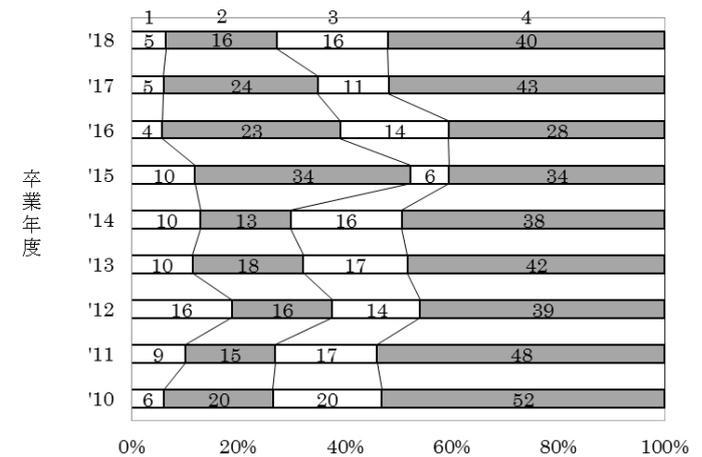


(B14) 工学系の専攻の大学院生との学術的交流はありましたか。

1. 工学系の大学院生と一緒に研究した
2. 工学系の大学院生と一緒に授業を履修した
3. 学術以外の交流があった
4. 全くなかった

意見など：3件

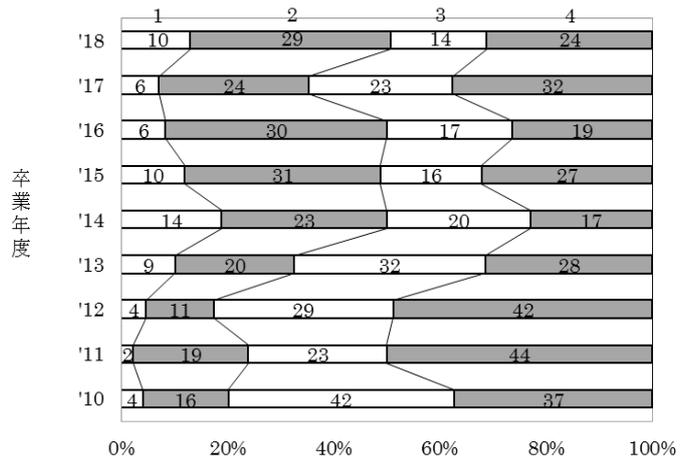
工学部との融合型について「メリットがあった」とする割合が1割程度である。「わからない」「メリットはなかった」とする回答も増加している。実際に工学系の大学院生と何らかの交流がある院生も5割程度で一時期に比べ交流する機会が減っている傾向がみられる。



(B15) 研究分野の異なる大学院生との学術的交流はありましたか.

1. 一緒に研究した
 2. 一緒に授業を履修した
 3. 学術以外の交流があった
 4. 全くなかった
- 意見など : 3 件

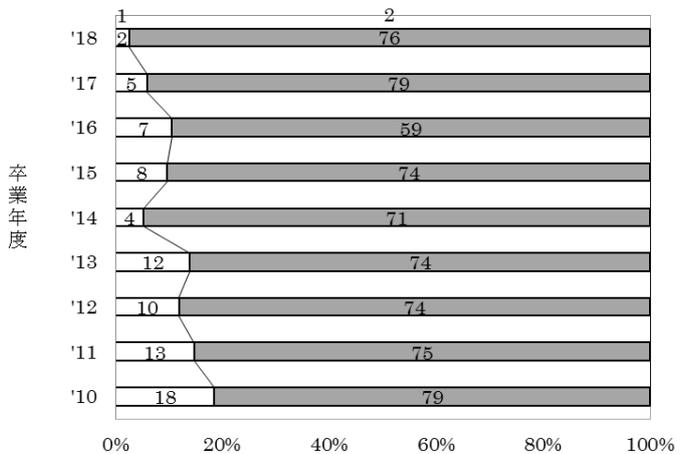
理学専攻の中でも他コースと何らかの交流がある院生は6割程度である。「全くなかった」との回答も多い。



(B16) 他専攻(複合新領域専攻や工学系の専攻)の授業科目は履修しましたか.

1. 履修した(科目数:回答数2件)
 2. 履修しなかった
- 意見など : 0 件

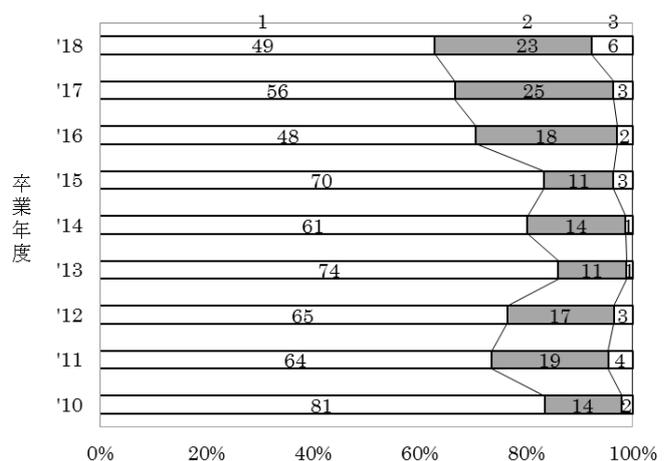
他専攻の科目の履修者はほぼいなかった。徐々に減少している傾向がみられる。



(B17) 全専攻共通科目のうちコース指定のない科目(プロジェクトゼミナール、特別プレゼンテーション、科学英語演習など)は履修しましたか.

1. 履修した(科目数:回答数40件)
 2. 履修しなかった
 3. 知らなかった
- 意見など : 0 件

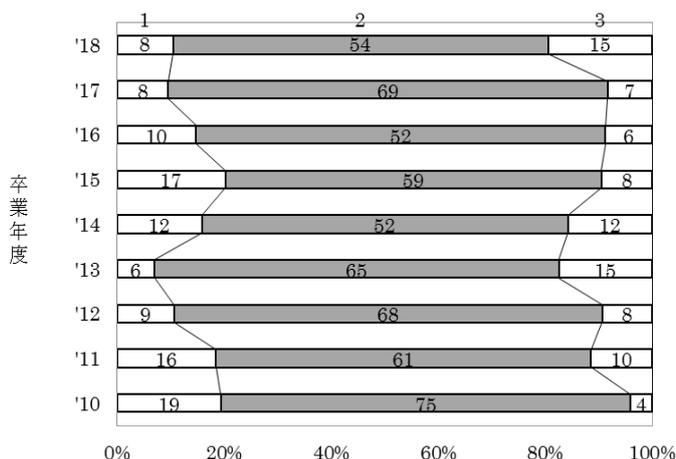
6割程度の院生が履修している。



(B18) 全専攻共通科目のうち高度教養科目、外国語リテラシー科目、総合科学 A~C、IJEP 科目、MOT 科目は履修しましたか。

1. 履修した (科目数 : 回答数 8 件)
 2. 履修しなかった
 3. 知らなかった
- 意見など : 0 件

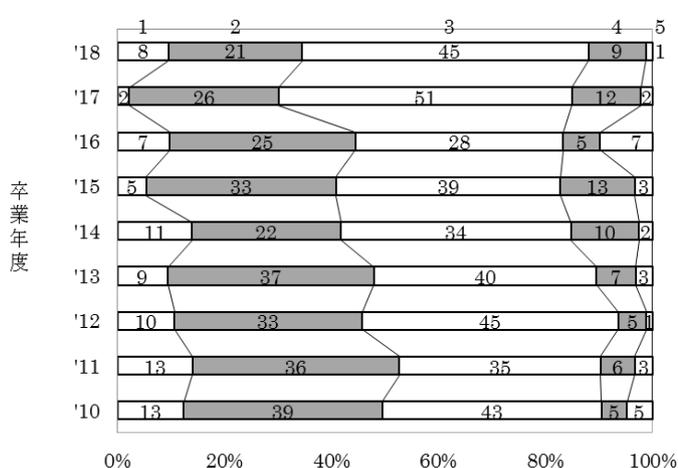
履修した院生の割合はかなり少ない。知らなかったという回答が増えている。専門外の科目についての説明はわかりやすくする工夫が必要である。



(B19) 自然科学研究科の授業の英語化について意見をお聞かせ下さい。

(複数選択可)

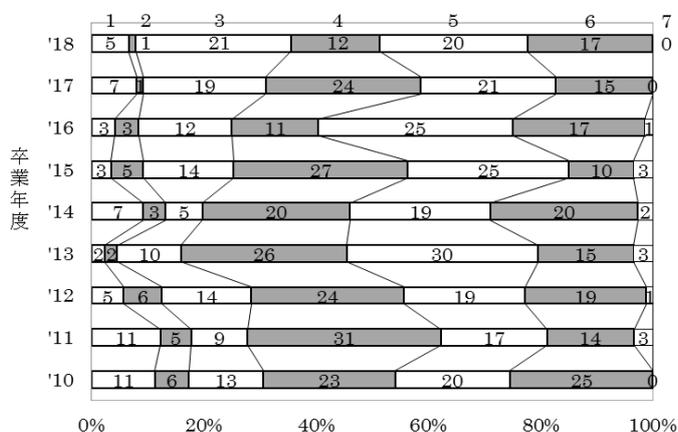
1. 全て英語が良い
 2. 専門用語は英語が良い
 3. 基礎的な内容は日本語が良い
 4. 全く必要ない
 5. その他
- 意見など : 2 件



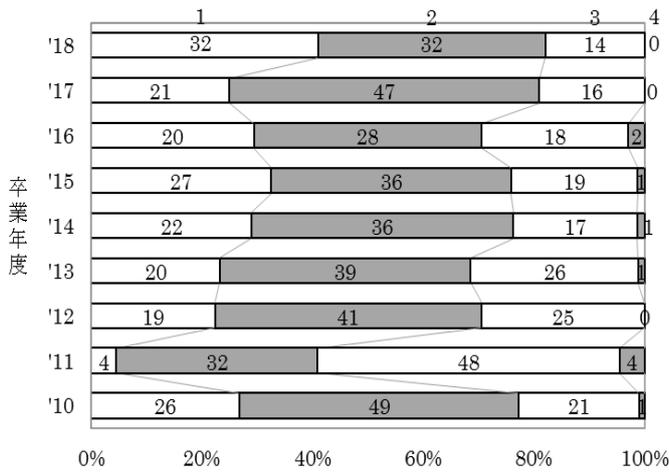
「基礎的な内容は日本語が良い」とする院生が多い一方で、「全て英語」「専門用語は英語が」と答える院生が 3 割程度である。基本的な内容は日本語でしっかり勉強し、その中で必要な専門用語は英語も交えて勉強したいという傾向がずっと続いている。ニーズに合った教育が必要である。

(B20) 学部・大学院の 6 年間の中で勉学意欲が最も上がったのはどの時期ですか。

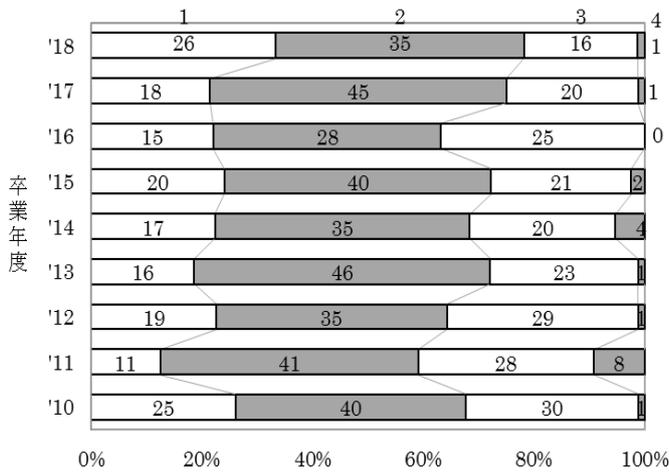
1. 1 年次
 2. 2 年次
 3. 3 年次
 4. 4 年次
 5. M1
 6. M2
 7. その他
- 意見など : 2 件



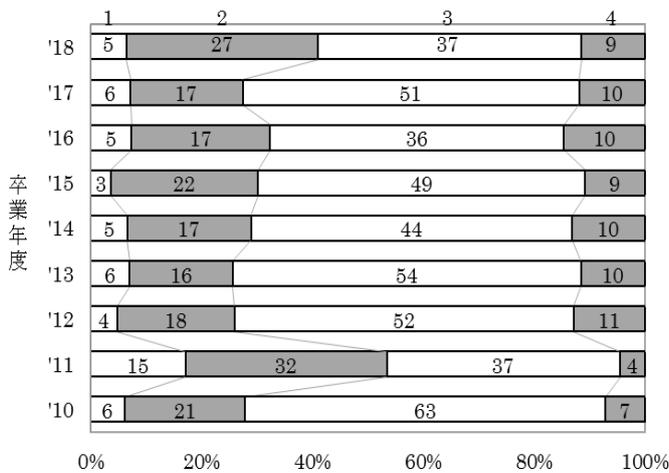
b. 専門知識 :



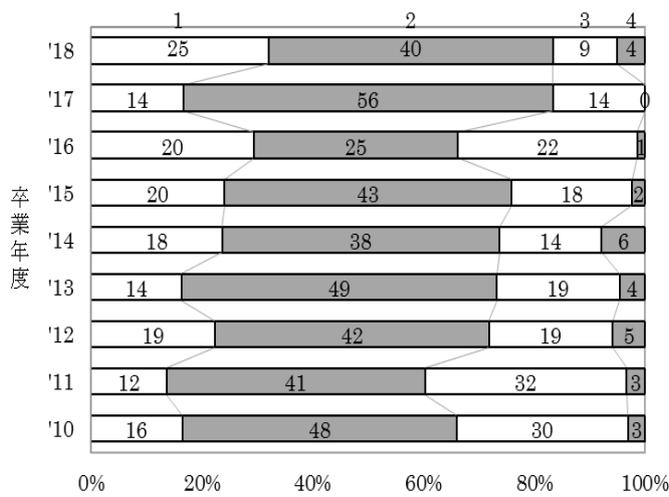
C.技術・技能



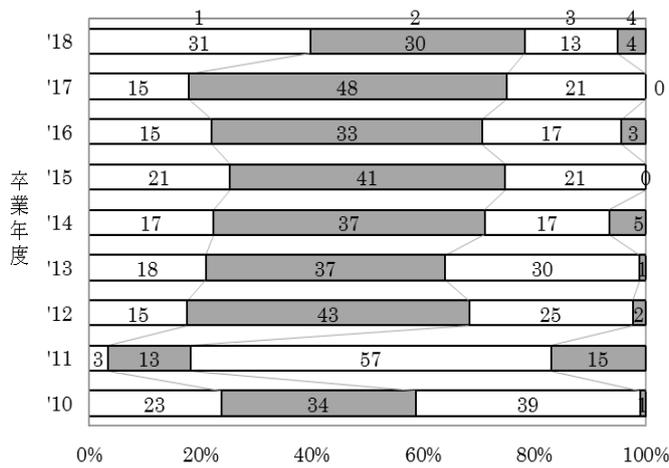
d.英語を含めた外国語運用力



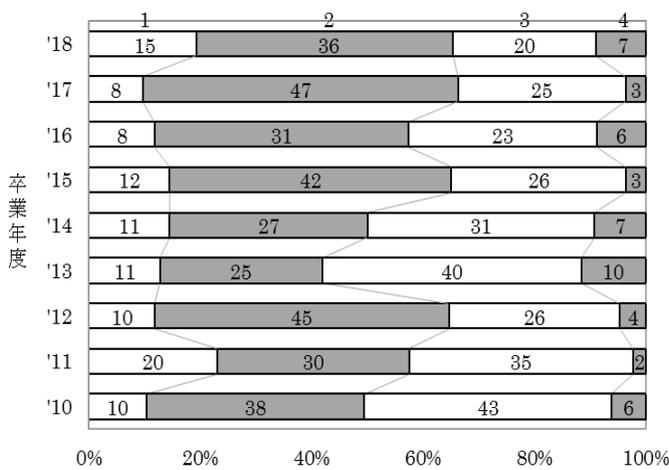
e. 一般的なコミュニケーション力 :



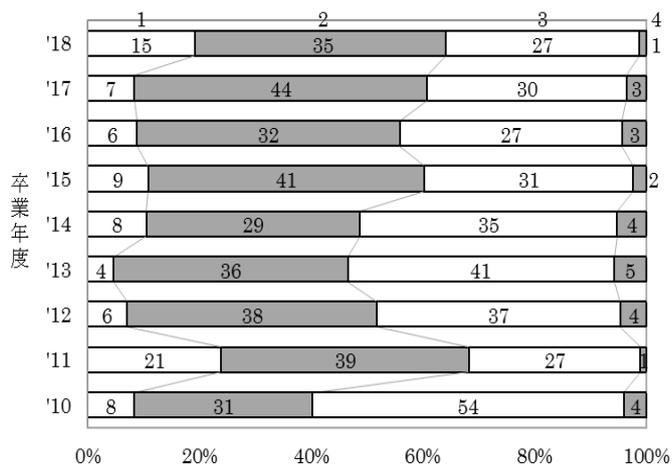
f. プレゼンテーション力 :



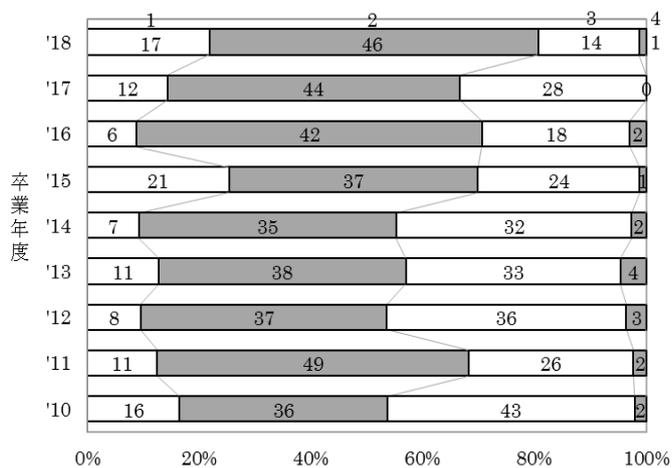
g. IT リテラシー・コンピュータ操作能力 :



h. 独創性・発想力：



i. 課題発見・解決力：



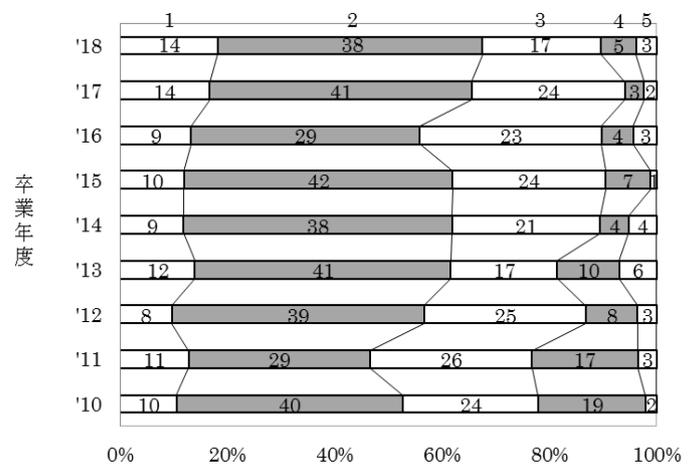
意見など：1件

課題発見・解決力について「身に付いた」「ある程度身に付いた」という回答が多いのが今年度の特徴である。良い傾向である。

(B23)博士前期課程を修了するにあたり、修士としての専門能力が身に付いたと思いますが、自己評価として満足していますか。

1. 満足
2. どちらかといえば満足
3. どちらとも言えない
4. どちらかといえば不満足
5. 不満足

意見など：1件



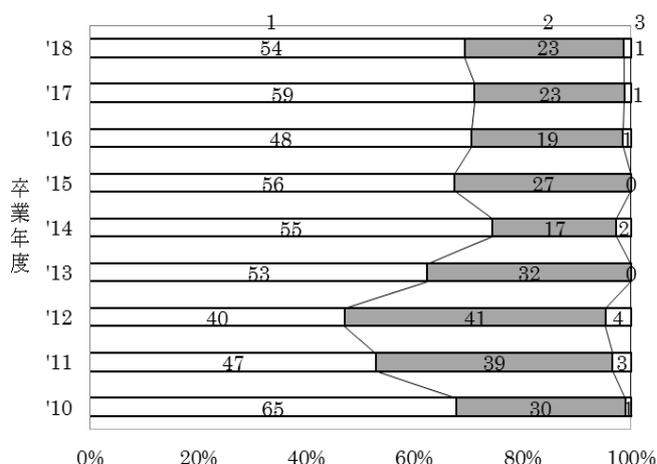
「満足」「どちらかといえば満足」を足し合わせると60%強あり、過去と比べてもよい傾向にある。

修士論文の研究および研究指導体制やシステムについてお聞きします。

(B24) 修士論文の研究に平均としてどれだけ費やしましたか。

1. 毎日
 2. 週の半分ぐらい
 3. ほとんどしなかった
- 意見など：1件

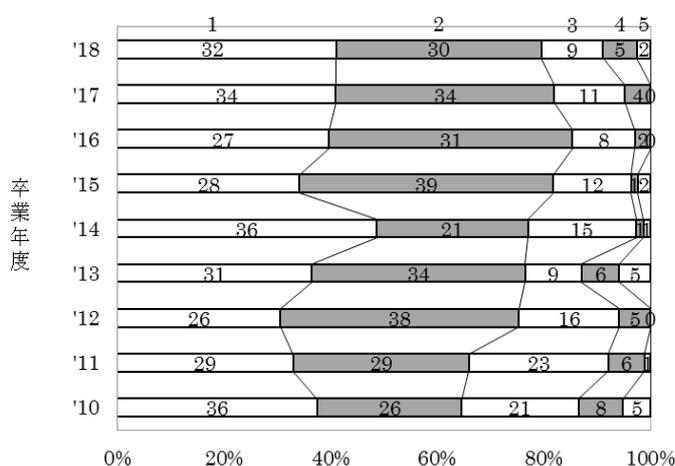
「毎日」とする学生が約70%である。設問が毎日か週の半分しかないので、回答がしにくい。



(B25) 大学院での研究指導体制に対して満足していますか。

1. 満足
 2. どちらかといえば満足
 3. どちらとも言えない
 4. どちらかといえば不満足
 5. 不満足
- 意見など：5件

「満足」「どちらかといえば満足」の回答が約8割である。若干割合が減少しているが、ここ数年は8割程度で安定している。



(B26) 研究を継続する上で役にたった項目（中間発表、学会発表、セミナーなど）があれば記述して下さい。

項目：38件

日常のゼミや中間発表に加え、学会発表が多く挙げられている。日常の研究の積み重ねと合わせて学会発表による他の研究者との交流が研究に役にたったという回答が多かった。

C. 修了後の進路について

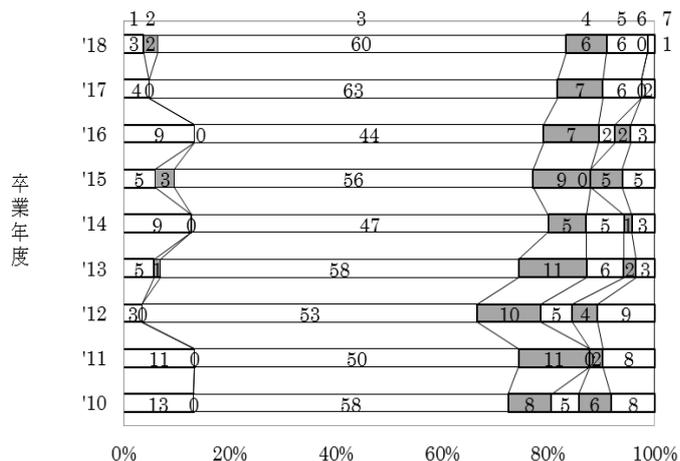
(C1) あなたの4月以降の進路は何ですか.

[大学院博士後期課程へ進学]

1. 熊本大学
2. 他の大学

[就職]

3. 民間企業
4. 教職
(非常勤および臨時採用を含む)
5. 公務員
6. その他の就職先
7. その他 (進学・就職以外) : 1件

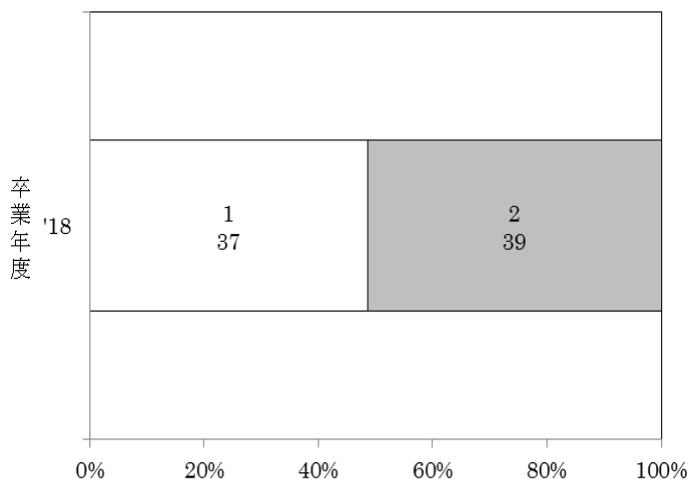


例年ほぼ同様の傾向で、民間企業に就職する院生が多い。

(C2) M1の時に開催している進路説明会には出席しましたか.

1. はい
2. いいえ

意見など : 0件



(C3) 大学院博士後期課程に進学する人にお聞きします。進学をいつ決めましたか.

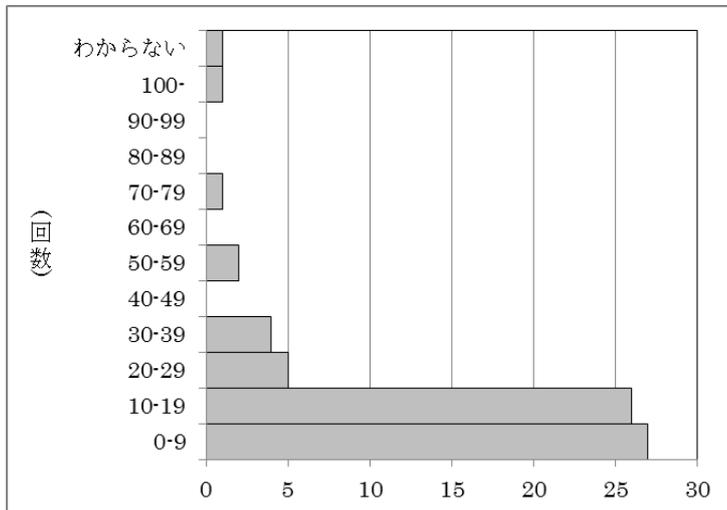
回答数 : 6件

- 大学入学時 (1名)
- 4年 (1名)
- M1の入学時 (1名)
- M1の春ごろ (1名)
- M2の12月 (1名)
- 2018年3月 (1名)

就職活動をした人にお聞きします。就職活動をしなかった人は(D1)に進んで下さい。

(C4) 就職活動（面接や企業訪問など）のため、企業を何回訪問しましたか。

回答数：67件



20回以下が大勢を占めている。

(C5) 就職活動をおこなった期間はいつですか。

開始時期	人数	修了期間	人数
平成 28 年 3 月	1	平成 29 年 4 月	1
平成 29 年 1 月	1	平成 29 年 6 月	3
平成 29 年 3 月	4	平成 30 年 3 月	1
平成 29 年 5 月	1	平成 30 年 4 月	9
平成 29 年 6 月	2	平成 30 年 5 月	8
平成 29 年 7 月	2	平成 30 年 6 月	24
平成 29 年 8 月	2	平成 30 年 7 月	10
平成 29 年 9 月	1	平成 30 年 8 月	9
平成 29 年 10 月	1	平成 30 年 9 月	1
平成 29 年 12 月	6	平成 30 年 10 月	1
平成 30 年 1 月	8	平成 31 年 1 月	1
平成 30 年 2 月	9		
平成 30 年 3 月	26		
平成 30 年 4 月	1		
平成 30 年 6 月	2		
平成 30 年 7 月	1		

意見など：2件

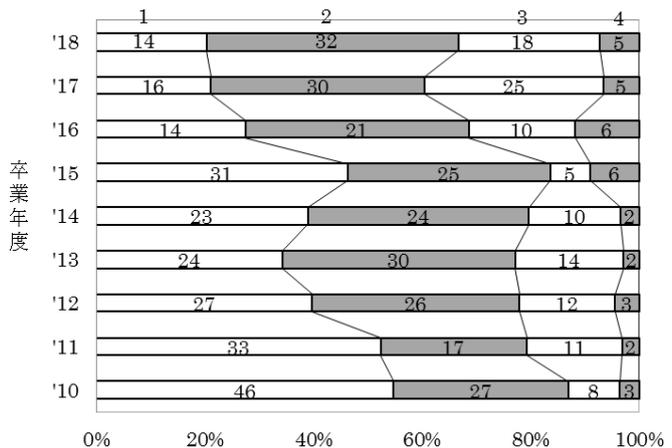
就職活動の開始時期は M1 の 3 月が多く、大体 M2 の 6 月から 8 月で終わっている。

(C6) 就職活動のため、大学院の授業や研究に参加できないことによる影響はどの程度ありましたか。

- 1. かなりあった
- 2. 少しあった
- 3. あまりなかった
- 4. 全くなかった

意見など：3件

「かなりあった」、「少しあった」が7割近くいる。

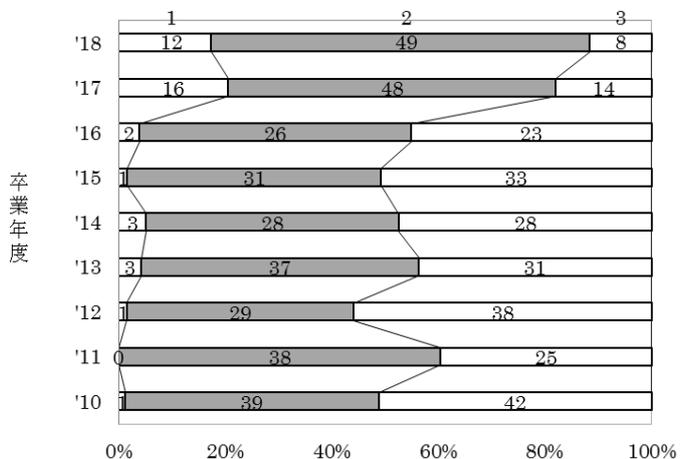


(C7) 企業等からの求人で学部やコースからの推薦を依頼されることがありますが、この推薦枠を利用されましたか。

- 1. 推薦を利用した
- 2. 推薦枠を利用しなかった
- 3. 知らなかった

意見など：1件

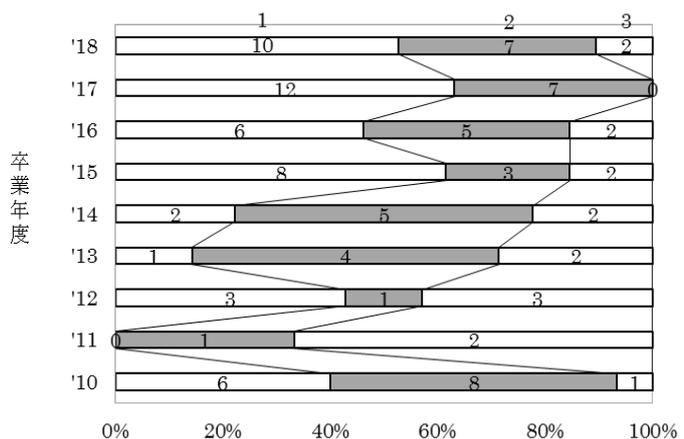
推薦を利用した人数は前年同様で過去と比べると多くなっている。「利用しなかった」という回答が昨年同様多い。17年以降就職活動に変化があるように思われる。



(C8) 大学院で学外特別演習（インターンシップ）を履修した人にお聞きします。（教育インターンシップも含まれます）インターンシップは卒業後の進路を決める上で役立ちましたか。

- 1. 役立った
- 2. どちらとも言えない
- 3. ほとんど役立たなかった

意見など：1件

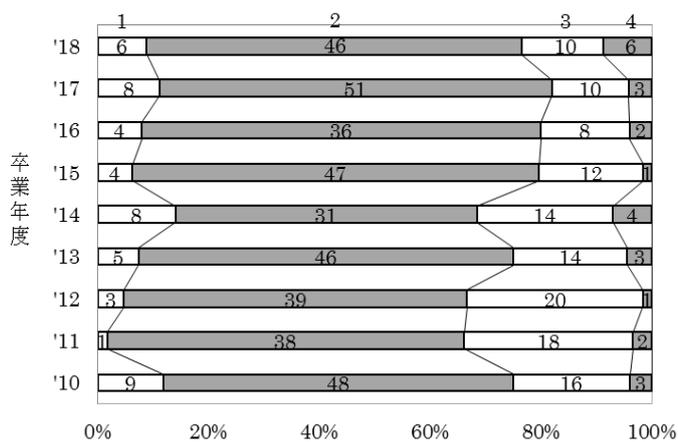


「役立った」という回答がほぼ半数である。一定の役割を果たしていると思われる。

(C9) 就職相談・キャリア支援の体制および
情報には満足でしたか.

1. 大いに満足である
 2. 満足である
 3. 不満足である
 4. 大いに不満足である
- 意見など：7件

「満足である」の割合が8割弱である。有効な情報を多く提供できるような体制を維持する必要がある。

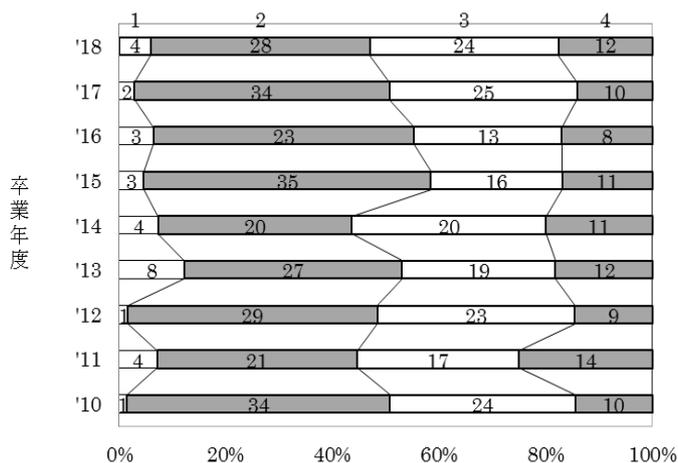


熊本大学理学部理学科を卒業した人にお聞きします (該当しない学生は (D1) に進んで下さい).

(C10) 就職活動で数学・理科の専門基礎を幅広く学んだことが役に立ちましたか.

1. 採用の決め手となった
 2. ある程度役にたった
 3. どちらともいえない
 4. 役に立たなかった
- 意見など：3件

就職活動に関しては「採用の決め手となった」「ある程度役にたった」で4割である。直接関係のある就職先の場合にはこのような回答になるであろう。



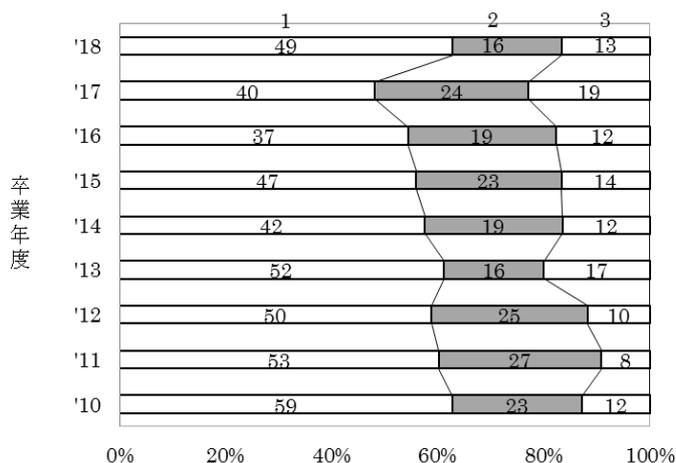
D. 学習環境や学生生活について

(D1) 自主的に学習できる場所や施設は十分ですか。必要なものがあれば挙げて下さい。

1. 十分
2. どちらとも言えない
3. 不十分

意見など：8件

「十分」が7割弱である。図書の充実および自修のために自由に使える場所が欲しかったという意見が多い。昨年度もこのような意見が多かった。早急の課題である。

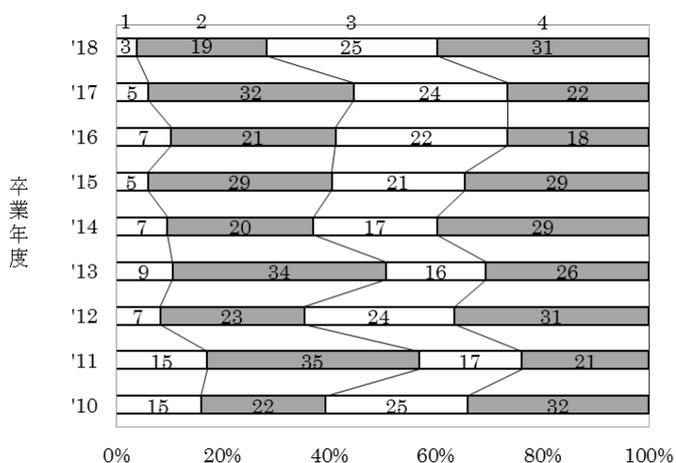


(D2) 在学中は、学生生活を続けていく上で、経済的な問題がありましたか。

1. ほぼ全期間にわたってあった
2. 時々あった
3. 少しだけあった
4. 全くなかった

意見など：6件

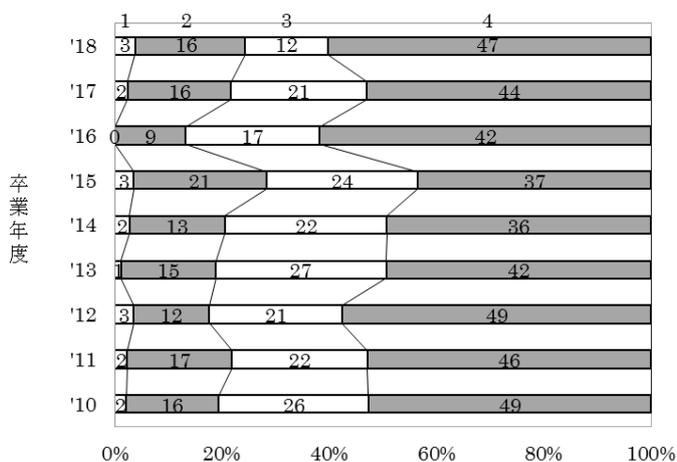
奨学金の必要性についての意見があった。



(D3) 在学中は、教員や学生との人間関係で問題がありましたか。

1. ほぼ全期間にわたってあった
2. 時々あった
3. 少しだけあった
4. 全くなかった

意見など：1件

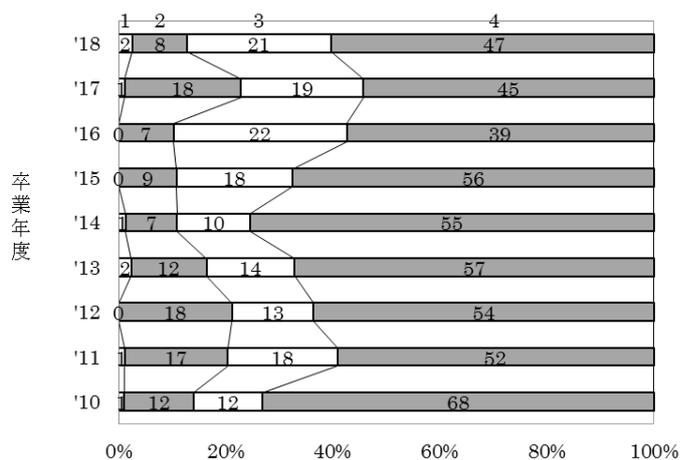


(D4) 在学中は、住居の条件や環境に問題がありましたか.

1. ほぼ全期間にわたってあった
2. 時々あった
3. 少しだけあった
4. 全くなかった

意見など：2件

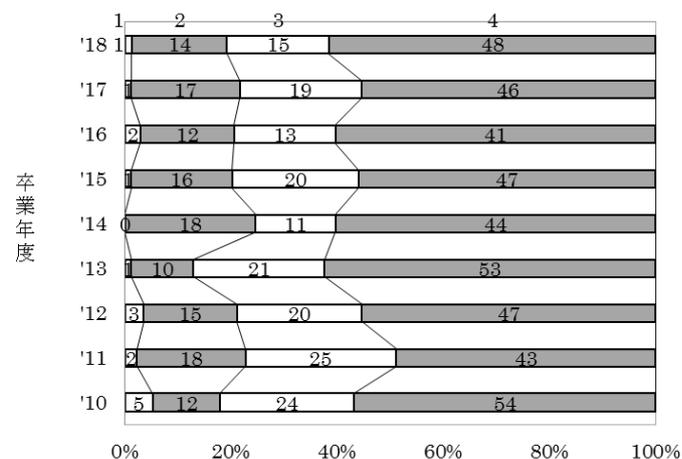
「全くなかった」という回答が6割であった。
例年と同じ傾向である。



(D5) 学生生活を続けていく上で健康面に問題がありましたか.

1. ほぼ全期間にわたってあった
2. 時々あった
3. 少しだけあった
4. 全くなかった

意見など：3件

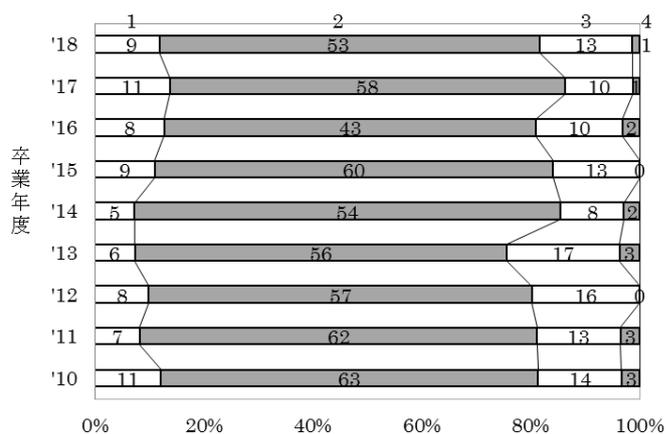


(D6) 健康相談の体制には満足できましたか.

1. 大いに満足である
2. 満足である
3. 不満足である
4. 大いに不満足である

意見など：1件

相談体制に関して「満足」している院生が8割程度である。体制を維持する必要がある。

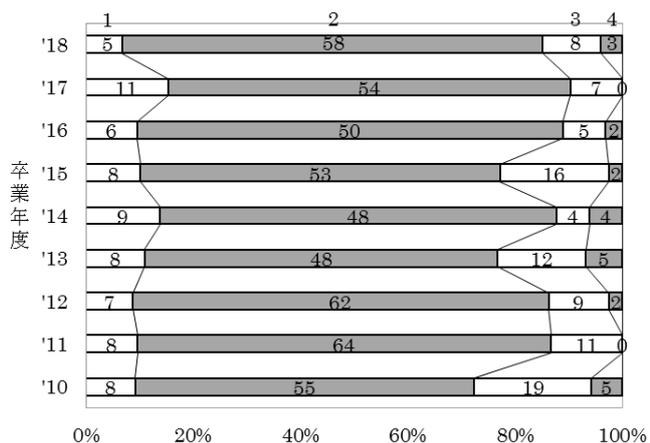


(D7) 各種ハラスメント相談の体制には満足
できましたか.

1. 大いに満足である
2. 満足である
3. 不満足である
4. 大いに不満足である

意見など：6件

「満足である」が9割を占める多数となっている。自由記述の意見は「利用していない」がほとんどだった。

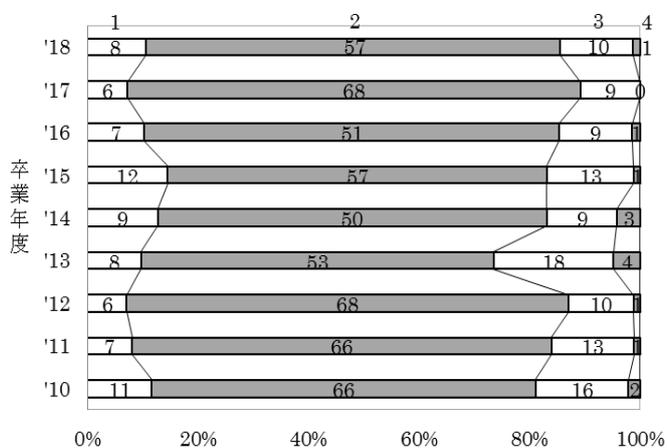


(D8) 授業・学習支援・生活支援を含む熊本大学の学習環境全体の満足度についてお聞きします.

1. 大いに満足である
2. 満足である
3. 不満足である
4. 大いに不満足である

意見など：3件

環境全体に関しては8割が「満足」と答えている。

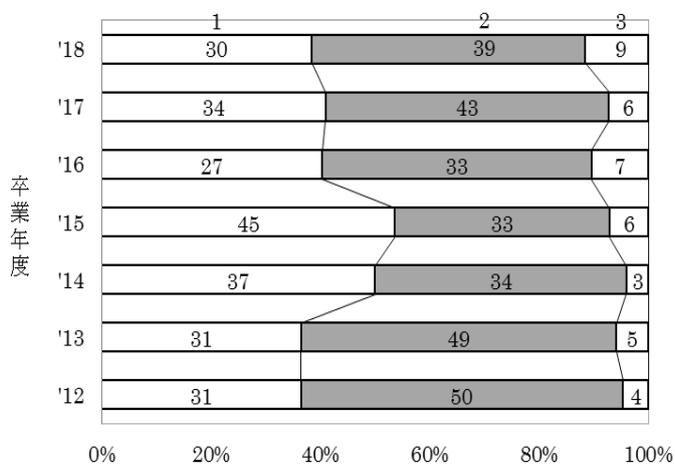


E. 授業改善アンケートおよびシラバスについて

大学院の授業に関するシラバスについてお聞きします。

(E1) シラバスは良くよみましたか。

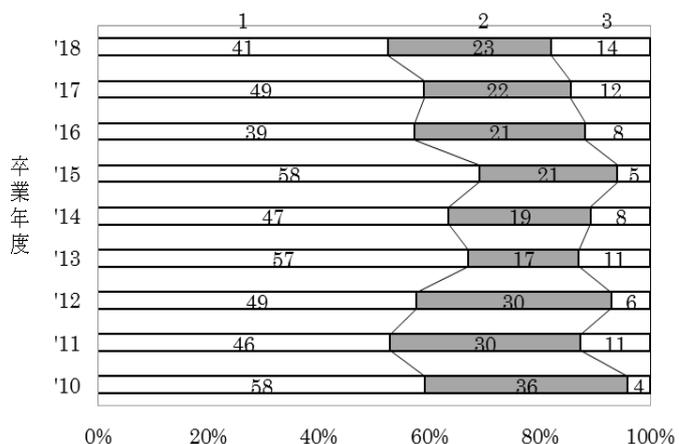
1. 良く読んだ
 2. 真剣には読まなかった
 3. 見ていない
- 意見など：1件



(E2) 履修する科目を選択する際にシラバスは役立ちましたか。

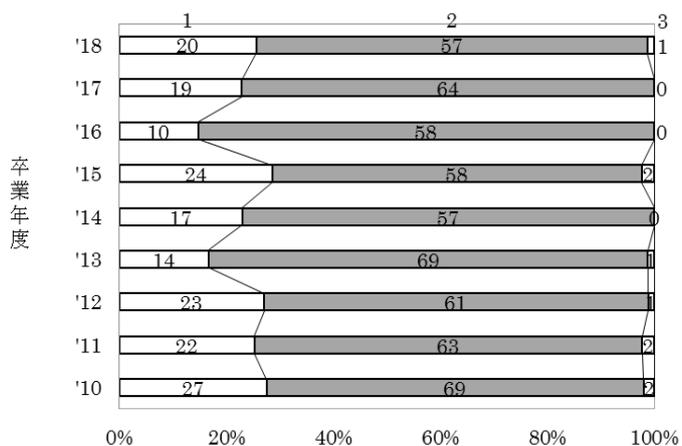
1. 役立った
 2. どちらとも言えない
 3. ほとんど役立たなかった
- 意見など：2件

シラバスは「真剣には読まなかった」という意見が多く、履修科目の選択に「役立った」も半数である。ほぼ例年通りの傾向である。



(E3) シラバスの成績評価の方法はもっと明確なものが良いですか。

1. より明確な方がよい
 2. 今の程度でよい
 3. その他
- 意見など：1件

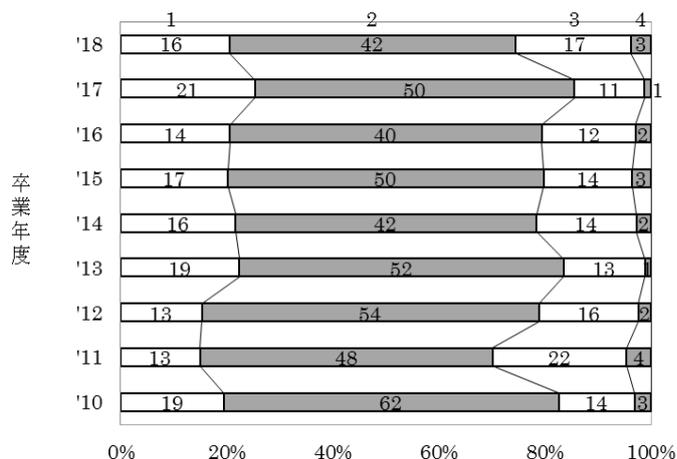


(E4) 全体的に、シラバスに記載された方法で厳格な成績評価が行われていると思いますか.

1. 行われている
2. 多くの科目で行われている
3. あまり行われていない
4. その他

意見など：4件

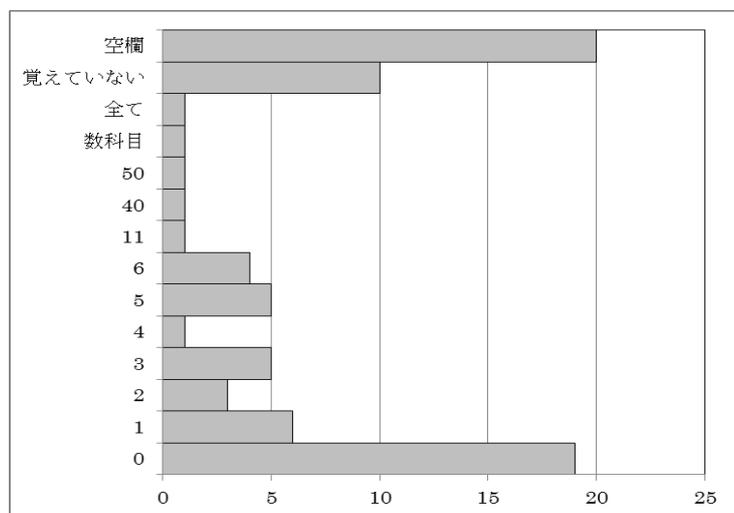
成績評価のシラバスの記述については「今のままでよい」が多く、厳格な成績評価も「行われている」と「多くの科目で行われている」を合わせて約75%である。例年同様である。



大学院の授業に対して行われた「授業改善のためのアンケート」についてお聞きします.

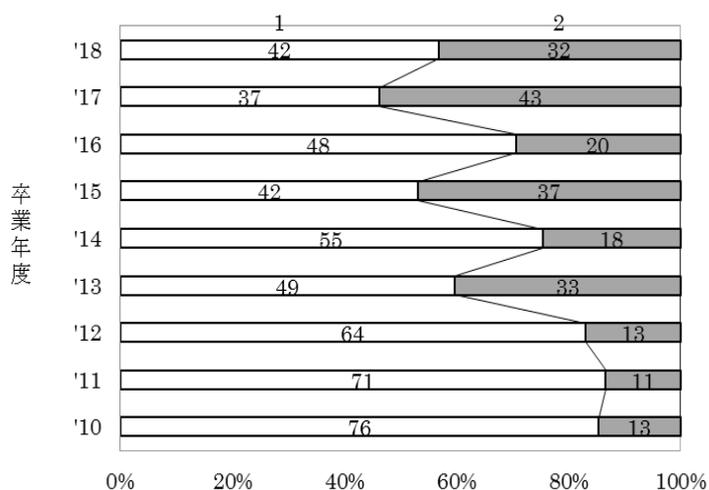
(E5) 在学中何科目の授業でアンケートに回答しましたか.

回答数：58件



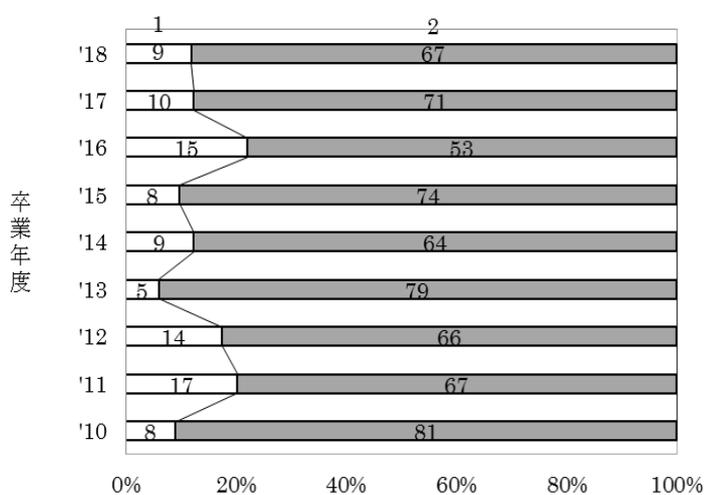
(E6) アンケートの回答に積極的に協力しましたか.

1. はい
 2. いいえ
- 意見など : 2 件



(E7) Web 上での教員のコメントは読みましたか.

1. はい
 2. いいえ
- 意見など : 1 件



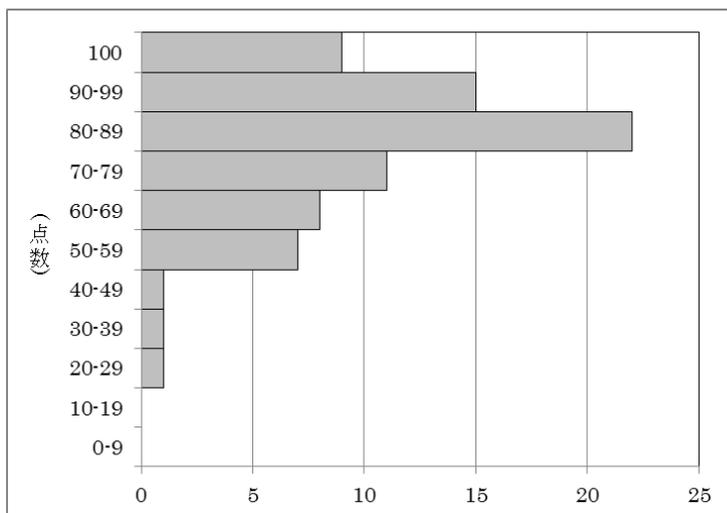
アンケートについては回答したことがないとする学生が多い。これは少人数の科目が多いためと思われる。その結果が各項目の回答にあらわれていると思われる。

F. 総合評価

理学専攻に対する評価をお聞きします。

(F1) あなたの理学専攻に対する評価・満足度を 100 点満点で点数をつけて下さい。

回答数：75 件



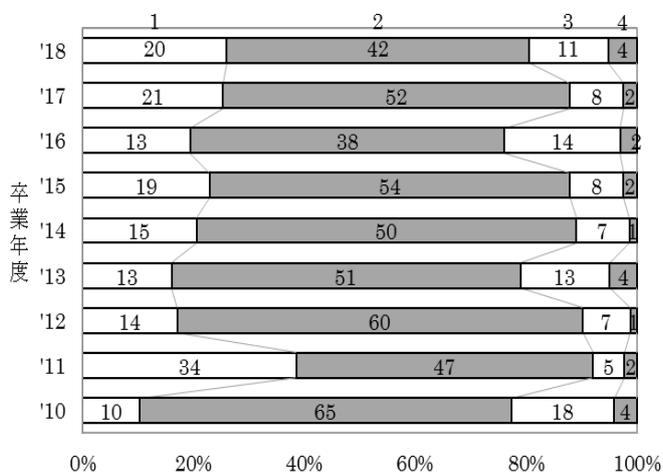
意見など：6 件

80-89 点をピークとしており、概ね満足していると感じる院生が多いことがわかる。

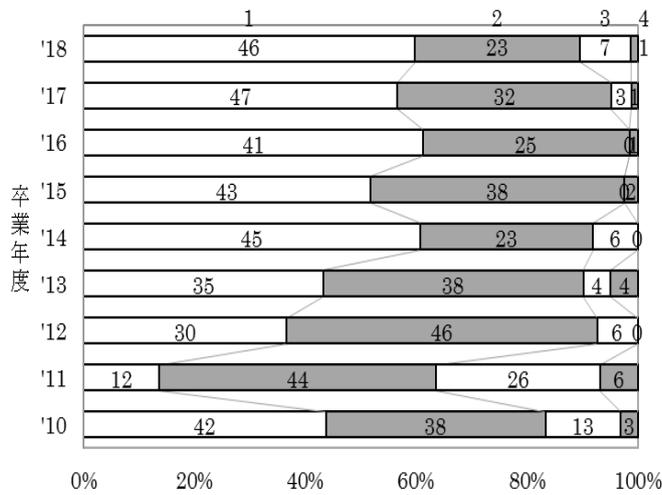
(F2) 理学専攻の評価項目に関して次の 4 段階で回答して下さい。

1. 大いに満足である
2. 満足である
3. 不満足である
4. 大いに不満足である

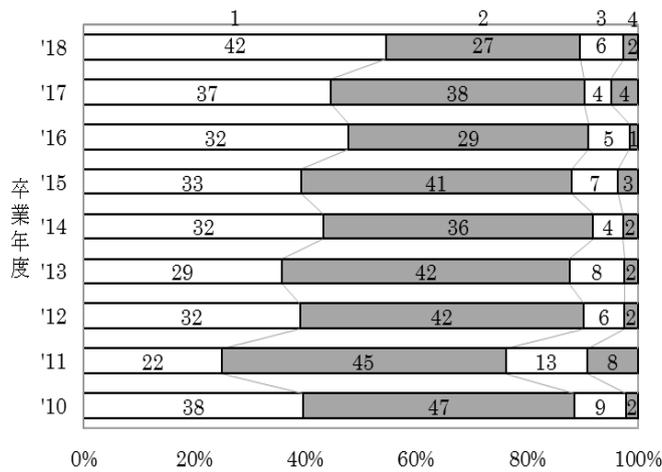
a. 授業科目の開設状況：



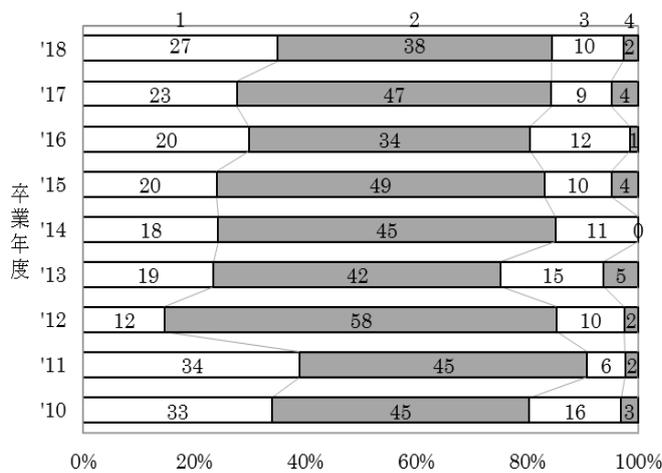
b. 修論等の指導 :



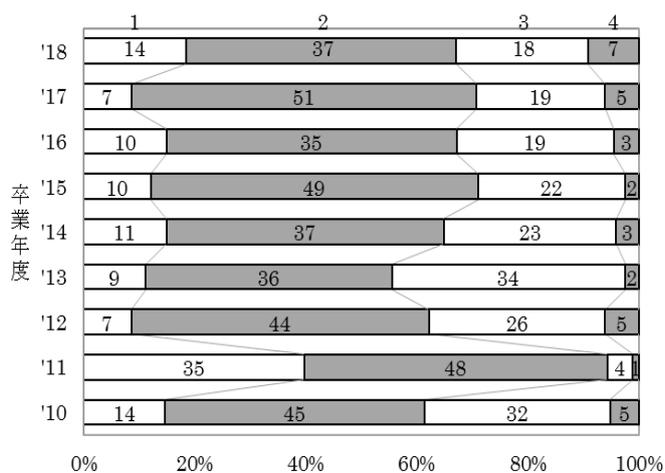
c. 研究室等での人間関係 :



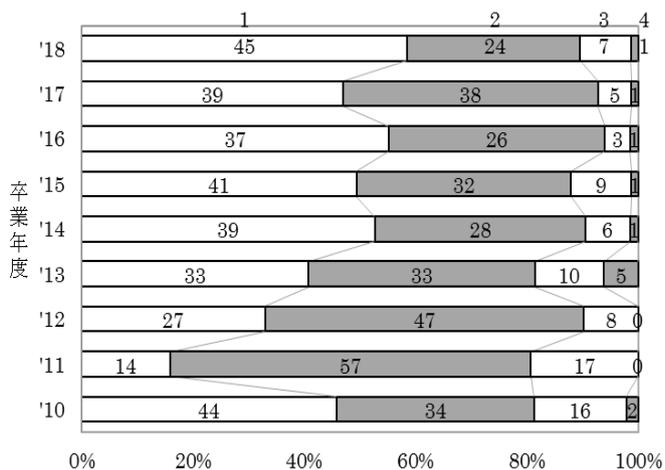
d. 施設や図書等の勉学環境 :



e:国際交流



f. 教職員等の熱意・対応態度等 :



意見など : 6 件

全般的に満足度が高い。感謝を述べる意見もあった。さらに満足度が上がるよう研究指導・環境整備とも向上していく必要がある。